

平成28年度 北東アジア
青少年環境グローバルリーダー育成事業



富山県立
大門高等学校

日程 <8月18~21日>

1日目

- ・開会式
- ・活動発表
- ・ポスターセッション
- ・環境保護活動



2日目

- ・海洋生物研究所
- ・植物園
- ・閉会式
- ・交流会



開会式

1日目

- ・開会式
- ・活動発表
- ・ポスターセッション
- ・環境保護活動



活動発表 ~日本代表~



テーマ「生物多様性保全」



ポスターセッション

壁またはホワイトボードに報告をまとめたもの。ポスターを貼りだし、掲示者が自身の報告を聞きに来た方に説明を行うことのこと。



To know is to love

Yoshino Araki
Chimatsubo Takemura
Ai Yatsu

1. 動機・目的
生物多様性に關する意識が低下していることと知り、環境に關する研究を行いたと考へた。学校の敷地内を探索したところペリットを発見。

2. 調査方法
① 遠征調査・目撃調査
自家情報と市役所から回収した死骸の情報を得る。
② ペリット調査
ペリットの内容物を分類し、含まれていた糞から動物の特定を行い、周辺に生息する動物の特定する。

3. 結果
① 遠征調査・目撃調査
哺乳類 3科3種
鳥類 6科8種の生息が判明。

2. ペリット調査
調査の結果、以下のような糞が含まれていた。

① 遠征調査・目撃調査
自家情報と市役所から回収した死骸の情報を得る。
② ペリット調査
ペリットの内容物を分類し、含まれていた糞から動物の特定を行い、周辺に生息する動物の特定する。

4. まとめ
遠征にチョウゲンボウが交差するのは、彼らの食性を支える十分なハタネズミが生息すること、そのハタネズミたちが十分に繁殖できる環境があるということを知った。
これからも継続して研究し、地産に生息する生物について発信していこうと思う。

チョウゲンボウの糞は大きくハタネズミに依存することがわかった。

鳥類の形より、これらの糞はハタネズミの糞であることがわかった。

25%
75%

ハタネズミ類

チョウゲンボウの糞は大きくハタネズミに依存することがわかった。

他国の発表

- ・両生類は自然環境の指標である(ハバロフスク地方)
- ・環境保全活動(緑の環境守り隊、学校や家での環境保全活動)(忠清南道)
- ・身近なことから環境と生物多様性を守る(黒竜江省)
- ・温室効果ガスを減らして地球環境を保護しよう(慶尚南道)



他国の発表

- ・ウニは人間の健康のための貴重な栄養源(沿海地方)
- ・ズグロカモメの索餌地の生態系復元に関するプロジェクト(遼寧省)
- ・楊口高校の生態研究サークル「オンセミロ」の活動(江原道)



環境保護活動



漂流物を使った工作。
大きさや形を選び、周りにある小物を組み合わせたりして何を作ろうか想像力が広がった。

環境保護活動

作る物も国ごとに個性があり、国境をこえてもリサイクルについて考えることができた。



環境保護活動

会場場所や宿泊場所の周辺にはたくさんの緑があふれ、木や葉など珍しいものから日本でもなじみ深いものまでそれぞれが思いのままに写真を撮った。

それらの写真を各国ごとのグループで厳選し、プレゼンを作り発表した。



ロシア科学アカデミー極東支部 海洋生物学研究所

普段は入れない研究所の裏側に入ることができた。ウニやクマノミ、イソギンチャクなどを育てて研究していた。



ロシア科学アカデミー極東支部植物園

見たことのない植物がたくさんあったが、日本で見る植物もあった。



ロシアのカエル

ロシア科学アカデミー極東支部植物園

見たことのない植物がたくさんあったが、日本で見る植物もあった。

また、植物園の葉を集めたものでしおりを3つ作り、その内の1つには年内に叶えたい願いごとを書いた。



交流会 with 高岡高校

おわら風の盆

会場が一体となって踊り、とても盛り上がった。



交流会



ウラジオストク観光



ウラジオストク観光



この事業に参加して

今まで環境問題にあまり向き合ってこなかったが、現在の環境問題が深刻な状況にあるということをも身をもって感じた。

日常生活で環境保全をすることは自分の意識次第である。

環境保全活動を自国だけでなく、世界中の人々と協力・交流を深め、国境を越えて他国の価値観や文化を交換することができた。

